

9月中に書いた「余滴」は、岡見健彦の作品研究を書いた井上祐一氏の論文と、港区HPその他を参照しました。この論文には、残念ながら田浦教会と衣笠病院教会会堂の記載がありません。予算のかぎられた教会堂建築では、健彦さんの特徴は出ていないだろうとも考えられます。しかしそうした所でこそ、設計者の信仰がよく見られるのではないのでしょうか。

文化学園リポジトリ、井上祐一（東京大学大学院建築研究科出身）

『いわゆる「ライト式」の住宅に関する研究：建築家岡見健彦の作品について』

衣笠病院は、最初から専属チャプレンをおきました。その時期は、田浦教会創立期と重なります。その時から、中島房男牧師が就任しました。やがて辞任して、自分に相応しい教会からの招聘を待って、教団幹事に就任します。直接お聞きしました。それだけ有能な先生でした。やがて、東京港区・高輪教会の仁田一三牧師が引退するので後任に招こうとの話がまとまります。ここには岡見さん一族がおられます。

衣笠病院教会創立50周年記念誌(1998年6月23日発行)があります。法人専務理事の古屋修哉さんからお借りしました。その中に、初代中島房男牧師の40周年記念説教があります。一部をご紹介します

「(米海軍横須賀基地の中にホープチャペルと言う立派な教会がある。その方々から千ドル(あの頃の32万円を戴いた)。これを元にして教会堂を建てろと言う。・・・みんなで献金をして苦勞して建ったものです。・・・設計者は岡見健彦さん、高輪教会を設計した人も、偶然にもこの教会の建築者、設計者でした。」・・・

「病院が火事になりましたのは私がこの教会から教団の伝道部に移りまして、その翌年のことです。」13ページ、

中島牧師は40周年当時82歳、1997年9月24日逝去・91歳、10月12日葬儀

病院火災は、1960年1月6日、中島牧師辞任は1958年8月17日、

中島牧師の高輪教会就任は1959年(68ページ)